

“わたしのまち”

中央区

「水の都」中央区を巡って

「河川、橋、舟運で水辺を感じる中央区」

中央区は、江戸時代から戦前まで水辺の多い地域でした。その後、一部の河川や運河などが埋め立てられ水辺が少なくなる一方で、今は、区内に残された水辺のある地域を巡って、新たな魅力を感じ、河川や橋を楽しむ人も増えています。今回は、「水の都」中央区の河川や橋を取り上げ、美しい水辺や景観、イベントなどを紹介します。

水辺と関わりの深い中央区

河川や水路、橋のまちだった中央区

中央区と聞けば、銀座や日本橋のよ
うな商業地や月島、晴海などの高層マ
ンション街などを思い浮かべる人が多
いでしょう。

中央区は隅田川の下流に面し、また
南部は東京湾に面するなど水辺に関わ
りが深いまちでもあります。

江戸時代、現在の中央区の地域は河
川や運河が張り巡らされていました。
京橋川、桜川、三十間堀川、鉄砲洲川
など多くの河川があり、そのほかにも
水路が存在し当時のまちをかたち作っ
ていました。

しかし、関東大震災や第二次世界大

戦、戦後の高速道路の建設といったま
ちづくりの中で、多くの水路が埋め
てられ、橋も取り壊されました。現在
は区内に7つの河川と3つの運河が残
っており、多くの橋が架けられ、当時
からの水辺を感じることができま
す。また、数寄屋橋、京橋といった橋の
名前が地名に残されていることで、か
つては水辺と関わりが深かった場所だ
ったことを知ることができます。

現在中央区内を流れる 7つの河川と3つの運河

●河川

隅田川
神田川
日本橋川
亀島川
築地川
汐留川
月島川

●運河

晴海運河
朝潮運河
新月島運河

※最近、東京
都の耐震護岸
の整備工事に
合わせ河川沿
いの親水公園
の整備も進ん
でいる



東京湾から見た中央区の全景。湾沿い、河川や橋の様子から、都心部にありながら水辺が多い「水の都」であることが伺える



中央区の水辺の楽しみ方

区内にある橋の魅力

水辺に関わりが深いまち中央区を感じるには、区内に多く残される橋を巡ってみることが楽しみのひとつと言えます。区内にある橋は、歴史的にも価値があり、数々の芸術的な形状の橋に触れることで橋の魅力を十分に堪能することができます。

◆歴史的建造物「日本橋」

江戸時代、東海道や中山道など5つの街道の起点であり、江戸の中心だった日本橋は歴史的建造物として国の重要文化財にもなっています。平成23年には架橋100周年を迎え、多くの人たちに愛される橋のひとつです。



東海道-五十三次 日本橋 - (京橋図書館所蔵)



現在の日本橋
「日本橋」のたもとには日本橋船着場が設置され、多くの周遊船が定期的に運航している

地元町会や地域企業などが参加し日本橋を洗う「日本橋橋洗い」には、毎年夏の行事として多くの人が訪れます。また、「春の名橋『日本橋』まつり」や、昭和48年から始まり今年で43回を数える「日本橋・京橋まつり」（平成27年は10月25日実施予定）では、鼓笛隊・全国のキャラクターたち・大名行列などが行進する「大江戸活粋パレード」をはじめとするさまざまなイベントが行われます。

このように橋を中心にしたまちのぎわいを楽しめる点も日本橋の魅力のひとつと言えます。

◆隅田川に架かる橋

区に面して流れる隅田川に架かる橋

を巡ると、東京を代表する河川の水辺と橋の魅力を十分に堪能できます。区内に架かる隅田川の橋は、上流の両国橋から下流の築地大橋まで全部で9つあります。

中でも国指定重要文化財となっている勝鬨橋や永代橋、清洲橋、東京都選定歴史的建造物の両国橋は、その歴史的価値だけでなく建造物としての美しさを感じることが出来ます。そのため、橋を含めた水辺の風景は「観光写真コンクール」においても撮影スポットとして人気があります。そのほかにも斜張橋として知られる新大橋や中央大橋、高層ビル、高層マンション群が立ち並ぶベイエリアに昨年新設された築地大橋などと、橋はまちのランドマークとなっています。

隅田川沿いには隅田川テラスが整備されており、春には桜を楽しむ場所があります。

また、水辺に親しむ場所としてだけでなく、川沿いを散歩したりランニングをする人にも人気があります。川沿いの散策と併せて橋を巡ってみるのもまちの楽しみ方のひとつと言えるでしょう。

隅田川に架かる代表的な橋



ドイツのライン川に架かるケルンの吊り橋をモデルに設計された清洲橋。懸垂線を描く橋は女性的な橋となっている



昭和45年11月29日の開閉を最後に、中央部の開閉が行われなくなった勝鬨橋

平成26年5月、隅田川の最下流に架けられた築地大橋。ベイエリア全体の景観にも配慮されたアーチ状の優美さが大きな特徴



清洲橋と比べて筋骨隆々とした男性美を思わせる造りの永代橋。関東大震災後当時、隅田川の復興橋の第一橋梁だった



※その他にも、両国橋、新大橋、隅田川大橋、中央大橋、佃大橋の5つの橋が中央区内の隅田川に架けられている。



春と秋に名橋「日本橋」まつりが行われ多くの人でにぎわう

区内を流れる川にも魅力的な橋が多い（写真は柳橋）



区内の文化的な魅力を発見・再確認できる中央区まるごとミュージアム。無料のバスや舟運を利用し区内を回遊、名所・旧跡、画廊・美術館、水辺の風景などを楽しめる



舟運の実施で、日常では味わえない川から見たまち並みを楽しめるのは大きな魅力

まだまだある代表的なスポット

そのほかにも、区内に残された河川や水辺には当時の地域性や歴史に思いを馳せ、観光スポットとして楽しめる場所が多く残されています。

佃堀に架かる佃小橋は近くの住吉神社で行われる例大祭とも関わりがあります。3年に1度行われる例大祭に使用される大幟（おおのぼり）は、橋のわきの川の中に埋められて保存されており、祭りの際に掘り起こします。

また、佃小橋を含めたまち並みとり

バーシテイの風景が新旧のまち並みの対比として印象的なため撮影スポットとして人気があります。同様に、江戸時代から昭和初期に料亭や船宿が立ち並んだ柳橋使用されている道路橋として

都内最古となる南高橋といった貴重な橋の数々が訪れる人を楽しませてくれます。

さらに、少し足を延ばして東京港晴海埠頭を訪れ、対岸に見える東京タワーやレインボーブリッジなどのまち並みを眺めて水辺でのんびり過ごす、都会の喧噪を忘れさせてくれます。

「水の都」としての中央区

これからの水辺の楽しみ方

このように河川や橋などを訪れることができさまざまな水辺の楽しみ方ができます。最近では舟運の実施で陸地の水辺巡りとは違った楽しみ方ができます。

中央区観光協会では、平成25年から試験的に他区や旅行会社と連携した舟運を活用した広域ツアーを行っています。過去に実施されたツアーでは、普段見ることができない川から見るまち

並みやまち歩きイベントに参加された9割の人が満足するといった結果も出ています。

今後継続して実施される予定で、近隣区と連携した舟運やまち歩きを企画したり、日本橋川や隅田川などの船着場を基点とした民間事業者による水上交通の定期便の計画などにより、これからの水辺の楽しみ方がさらに広がっていきます。

イベントで区の良さに触れる

水辺を生かしたイベントが充実し、まちを訪れる人に多様な楽しみ方を提案しつづける中央区です。

平成20年から毎年実施されている中央区まるごとミュージアム（平成27年は11月1日開催予定）は、区内を一つのミュージアムに例え、無料のバスや船に乗って区内を回遊しながら、名所・旧跡、画廊・美術館、水辺の風景など、区内の文化的な魅力を発見・再確認することができます。施設だけでなく、河川や橋も含め日常生活では見過ごしがちな中央区の良さに気づかされます。

そのほかにも、朝潮運河沿いの晴海トリトンで毎年10月末に行われるフラワーフェスティバルなど、水辺を生かしたイベントが満載です。

中央区はこれからも住む人、訪れる人に水辺を歩き憩いの場として過ごす楽しみ、水上から眺める楽しみ方を提案し、水辺に親しむことのできる「水の都」として新たな魅力を発信しつづけていくことでしよう。